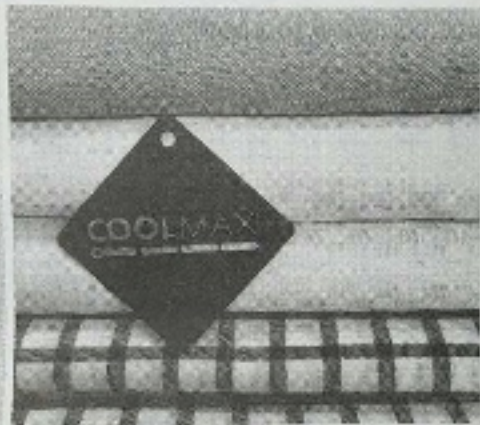


紳士ドレスシャツ生地商社の太陽繊維（大阪市中央区）は、19春夏シーズンも機能に焦点を当てた展開に重点を置く。人気の「クールマックス」が主軸になるが、来季はポリエステル綿混に絞り込んだ提案を行う。校倉（あせくら）作り構造組織の「アゼック」も主力生地の一つと位置付けている。

クールマックスは涼感性に優れた素材。これまではポリ



「クールマックス」と「アゼック」が両輪

ポリエステル綿混（経糸が綿・ポリリエステル、緯糸がクールマックス）とポリエステル100%の2タイプを投入してきたが、「納得できる素材が見つからなかった」（長谷川達取締役営業部長）として、来春夏はポリエステル綿混に限定して販売する。

組織が独特であることから他の素材との違いを訴えやすいとするアゼックがもう一つの柱となる。海外オペレーションへの対応力も利点の一つに数えられ、18春夏の打ち出しでも好評を博した。クールマックスとアゼックの両輪で販売拡大を狙う。

形態安定の提案にも力を入れるが、重視するのは質の向上。経糸に60番単糸、緯糸に70番単糸を使った生地（綿100%）に形態安定性を付与したものがその代表で、薄くて柔らかな風合いに優れている。

